

KENBI
HIROSHIMA
PREFECTURAL
ART MUSEUM
COLLECTION



広島県立美術館の
新しい仲間たち
紹介します。

平成24年度新収蔵作品を中心に

鏑江 良二《チェルノブイリ》1989-94(平成元-6)年
Kaiji Ryoji Chernobyl 1989-94

*Selected Works Focused on the New Collections of the 2012
Let Us Introduce You Our New Company*

October 19 sat-December 25 wed, 2013

平成25年 (2013) 10.19 土曜 — 12.25 水曜
9:00-17:00 金曜日は19:00まで 入館は閉館の30分前まで

広島県立美術館
所蔵作品展 2013 Vol.03

広島県立美術館第Ⅲ期所蔵作品展

平成24年度新収蔵作品を中心に

紹介します。広島県立美術館の新しい仲間たち

休館日：月曜日(※特別展会期中は無休)

会場：広島県立美術館

2階展示室(彫刻展示スペース、第1室、第2室、第3室)

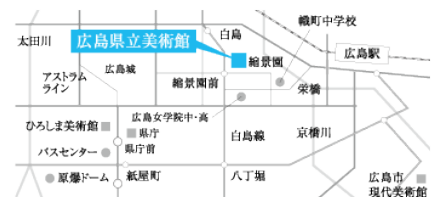
住所：〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

Tel:(082)221-6246 Fax:(082)223-1444

E-mail:iroeuma2@gmail.com

アクセス：JR広島駅より約1km、広島城より約400m

市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車
広島駅新幹線口より広島市内循環バス(ひろしまめいぶる
〜ぶ)で「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

press release

紹介します。
広島県立美術館の
新しい仲間たち
平成24年度新収蔵作品を中心に

【広島県立美術館について】

旧広島藩主・浅野家が縮景園の一角に開設した日本最古の私立美術館といわれる「観古館」。観古館が1945年8月6日に原子爆弾によって焼失し、その跡地に1968年、広島県立美術館が建設され、開館しました。今年は観古館の開館（1913年10月15日）の100周年に当たります。

そして、広島県立図書館の移転後、両施設の敷地を統合して今日の姿となり、1996年にリニューアルオープンしました。広島市中心部に位置し、緑ゆたかな国の名勝・縮景園に隣接した都市型美術館として、様々な特別展を多数開催。広島にいながらにして、世界の美術を楽しむことができる美術館です。

【広島県立美術館 所蔵作品について】

広島県立美術館では、①広島県ゆかりの美術 ②1920—1930年代の美術 ③日本とアジアの工芸作品の3つを作品収集の柱として、現在では4000点を超える作品を所蔵しています。大作、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》や重要文化財《伊万里色絵花卉文輪花鉢（柿右衛門様式）》など、多くの名作を所蔵しています。

近年ではジャンル横断的なテーマによって所蔵作品展を企画。お客様からは、これまでにない切り口で、作品の新たな魅力を発見できると、期待する声も。そこで、今年度も特別展と連動を図る展覧会や広島で開催される館外のイベントとの連携も重視し、5つの所蔵作品展を開催します。

また、子ども達への普及事業として平成23・24年と「ワクワク！ドキドキ！夏休み子ども美術館」を開催、所蔵作品を子どもにも楽しめるように紹介するとともに、多彩なワークショップを開催してきました。今年度は、子ども向け所蔵作品展として、新たに「美術館の子ども部屋」を開催。様々な年齢層の方にお楽しみいただけるよう、企画しております。

「所蔵作品展はいつも一緒でしょ？」と思われる方にこそ見ていただきたい、広島県立美術館の魅力ある作品達。ぜひ、所蔵作品展にも足をお運びください。



重要文化財
伊万里色絵花卉文輪花鉢（柿右衛門様式）

【展覧会概要】

**平成24年度の新収蔵作品は191点。
広島県立美術館の新しい仲間たちを紹介します。**

当館では、県民の皆様に幅広く良質な美的体験を提供することを基本に、地域文化の継承・発展に貢献し、かつ特色ある美術館となるよう、「広島ゆかりの作家と作品」「1920年代から30年代の美術」「日本とアジアの工芸」に重点を置いて美術作品を収集してきました。

こうした美術館活動に信頼と賛同をいただき、昨年度は、新たに11名の方々から合わせて191点の作品を御寄贈いただきました。

広島県立美術館は、多くの皆様の熱意と支援を得ながら、成長し続けています。平成25年度第3期の所蔵作品展は、これらの新収蔵作品を中心に関連作品を交えて構成します。新しい仲間たちを得てさらに魅力を増した当館コレクションをお楽しみください。

【展覧会の章構成について】

1 鯉江良二の“やきもの”たち

昨年度一括して受贈した、179点に上る鯉江良二の作品群をお披露目します。これらは、“やきもの”の既成概念を外して「やきものとは何か」を問い続け、「マスクの鯉江」「メッセージの鯉江」「器の鯉江」と称される作家の、作風の特徴と多様性が一覧できる内容となっています。具体的には、初期の走泥社の影響を受けた作品、トレードマークである作家のライフマスク、現地制作主義の代表作である《淘汰一井の頭》、反核のメッセージを込めた《チェルノブイリ》シリーズをはじめ、幅広い技法による壺や花器、食器、酒器、茶陶などのユニークな陶磁器類のほか、書などの平面作品、ガラス・ブロンズ・アルミによる作品が含まれます。その多彩で旺盛な創作の軌跡をお楽しみください。

2 日本洋画の新収蔵品

ここでは、主に油彩画の分野で活躍した南薫造、藤田嗣治、山路商、野田信、木村武男、寺田政明、菅井汲の新収蔵品を中心に、関連作をあわせてご紹介します。あわせて、戦前と戦後のパリで、それぞれ国際的に活躍した作家、藤田と菅井の作品が新収蔵品に含まれていることに因んだ小特集もお楽しみください。

3 近世絵画と日本画の新収蔵品

江戸中期を代表する異才の画家・曾我蕭白の《伯顔図》と、本県出身で革新的な日本画を追求した船田玉樹の《牡丹》、さらには、日本の印象派として知られる洋画家・南薫造の希少な日本画《富士》の3点の新収蔵品を中心に、関連作品をご紹介します。

【南薫造、船田玉樹の新収蔵品】

両作家の新収蔵品を旧蔵品や関連資料とあわせて展示。画風の変遷や表現の振幅も見どころです。

【《伯顔図》と近世絵画セレクション】

初の収蔵となる曾我蕭白の作品を中心に、同時代に活躍した宋紫石をはじめ、望月派の作品や巖島の屏風絵など、江戸期の絵画をご紹介します。

【日本画に描かれたアジアの歴史と文化】

古来より画題として愛された牡丹や富士、また歴史人物を描いた《伯顔図》という3点の新収蔵品に因み、アジアの歴史や文化を描いた作品をご紹介します。

農村風景を見つめた和高節二やシルクロードを旅した平山郁夫など、アジアの風土に根差した画題を独自の表現で描いた個性豊かな作品をご鑑賞ください。

press release

【主な作品紹介】

紹介します。
広島県立美術館の
新しい仲間たち
平成24年度新収蔵作品を中心に



鯉江良二《淘汰一井の頭》
1988(昭和63)年 新収蔵
鯉江良二は現代陶芸を代表する作家の一人。反戦・反核を訴える「メッセージの鯉江」、多くの個性的な器を世に送り出した「器の鯉江」などとして知られる作者の、多彩で旺盛な創作活動の軌跡を紹介。



野田 信《本川橋》
1931(昭和6)年 新収蔵
野田信は広島ゆかりの画家。戦前の広島市中心部を描いた作品としても貴重。



曾我蕭白《伯顔図》
1767(明和4)年頃 新収蔵

曾我蕭白は伊藤若冲、長澤芦雪と並ぶ江戸時代の型破りな絵師。高潔で知られたフビライ汗の重臣・伯顔を個人的に表現。



船田玉樹《牡丹》
1947(昭和22)年頃 新収蔵
絹地に繊細な筆致で描かれた白牡丹。牡丹図は作者が繰り返し取り組んだモチーフで対象の捉え方に実験的な試みが見られます。

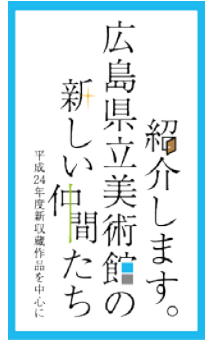


寺田政明《生と死の凝視》
1950(昭和25)年
本作の下図と考えられる作品を新収蔵。制作の過程を知る上で興味深い作品です。



菅井汲《V10》
1980(昭和55)年 新収蔵
菅井汲の制作手法の一つ、“基本単位の設定と反復”が完成の域に達した作品であり、作者円熟期の代表作。

press release



【関連イベント】

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時：平日14:00～/土日祝11:00～、14:00～

場所：2階所蔵作品展示室(全室)

参加料：無料

※事前申込不要、要入館券

※ただし、11月24日(日)、12月7日(土)、12月14日(土)は11:00～のみ

※毎月第4土曜日11:00～は、小学校及び特別支援学校小学部第5-6学年の児童と保護者の皆様を主な対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。(30分～1時間程度)

キュレーターズ・トーク

担当学芸員が作品・作家にポイントをしばって解説します。

藤田嗣治《婦人像(リオ)》を中心に

日時：11月24日(日) 14:00～(40分程度)

場所：2階所蔵作品展示室

参加料：無料

講師：藤崎綾(当館主任学芸員)

※事前申込不要、要入館券

鯉江良二の“やきもの”たち

日時：12月14日(土) 14:00～(40分程度)

場所：2階所蔵作品展示室

参加料：無料

講師：宮本真希子(当館主任学芸員)

※事前申込不要、要入館券

【開催概要】

展覧会名称

日本語タイトル：平成24年度新収蔵作品を中心に 紹介します。広島県立美術館の新しい仲間たち

英語タイトル：Selected Works Focused on the New Collections of the 2012. Let Us Introduce You Our New Company

会期

平成25(2013)年10月19日(土)～12月25日(水)

休館日

月曜日(特別展会期中および祝日は開館)

開館時間

9:00～17:00 ※10/15～3/31の金曜日は19:00まで開館 ※入館は閉館30分前まで

会場

広島県立美術館 2階展示室(彫刻展示スペース、第1室、第2室、第3室)

開催クレジット

主催：広島県立美術館、乃村工藝社・イズミテクノ美術館活性化共同事業体

会期開催中の特別展

「シャガール展」11月3日～12月25日

同時開催の所蔵作品展

「美術館のこども部屋ver.1「ケンピの宝物。名作って何だろう？」」10月19日～12月25日

入館料

一般：500円(400円) 高・大学生：300円(240円) **高校生以下無料**

※()内は前売り・団体20名以上

※特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

※身体障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する外国人留学生の方などは無料。

※東日本大震災で避難して来られた方は無料です(1階総合受付でお申し出ください)。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 事業推進課 山本恵子